

大業たいぎようをなすは、必ず人ひとをもつて本もととなすべし

建安十三年（二〇八年）、曹操そうそうの大軍に追われた劉備りゅうびは、荊州けいしゅうから撤退します。その時、多くの民衆が劉備を慕って一緒に荊州から逃げ出しました。もちろん非戦闘員を抱えての逃走は大変です。民衆を見捨てて撤退するよう繰り返し部下たちは劉備に進言しますが、劉備は一刀両断にそれを拒否、大きな仕事を成し遂げるためには人民こそ第一である、そう言って彼らと共に撤退を続けました。

領民あってこそその君主、そのことを劉備は熟知していたのです。

